

潟上市 県高校生英語ディベート大会



高校生が英語で意見を交わしたディベート大会

17校72人 議論白熱

I部、秋田チームA優勝

英語での発信力や論理的思考力などを競う「県高校生即興型英語ディベート大会」が、潟上市の県総合教育センターで開かれた。県内17校から24チーム、72人が参加し、白熱した議論を繰り広げた。

英語力のさらなる向上を目指すI部と、ディベートを通じて基礎的な英語力を身に付けることを目的としたII部

ト活動の普及を促進するためII部に「専門学科の部」を新設。秋田工業、秋田商業、金足農業の3校が参加し、金足農業が戦いを制した。

秋田工と秋田商は「宿題は禁止するべきか」という議題で対戦。肯定派の秋田工は「宿題に頼らずに自分で何を考えるかが重要」と主張。否定派の秋田商が「宿題があることで時間を管理する能力を身に付けることができ、他の活動にもつなげられる」などと反論した。

参加した金足農2年の小林奈央さんは「始まる前は緊張や不安な気持ちもあったけれど、やってみたら思っていたよりも楽しかった。英語が好きなので、とてもいい機会になった」と話した。

大会は21日に実施。I部で優勝した秋田チームAと、準優勝した秋田南チームAは、10月25日にオンラインで行われる東北大会に出場する予定。

大会は県教育委員会の主催。2018年度から毎年行っている。今回は大雨の影響で鹿角チームAと大館国際情報学院チームA、能代松陽チームBの3チームが棄権した。

(佐藤千華)